

ラジウム湯 温泉成分表

●湧出地
●泉質
●泉温
●温泉の成分

神戸市北区有馬町字歯架ヶ尾 1764番 (神鉄有馬ラジウム鉱泉)
単純放射能冷鉱泉 (低張性、中性、冷鉱泉)
21.4°C (気温 18°C)
①性 状 無色、澄明、無臭、無味
長期間放置しても性状は変わらない
②水素イオン濃度(PH値) 7.17
③密 度 (20°C/4°C) 0.999g/cm³
④蒸発残留物 (110°C) 0.210 g/kg
⑤ラドン(Rn) 含有量 1580 Bq/kg (117 マッヘ単位)
⑥試料 1kg 中の成分、分量及び組成 下段別掲

●分析年月日
令和6年11月12日
●分析者
兵庫県立健康科学研究所 (薬第 02E-0001号)

効能

一般的適応症

筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり (関節リウマチ、変形関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え症、末梢循環障害、胃腸機能の低下 (胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常 (糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安症、ストレスによる諸症状 (睡眠障害、うつ状態など)、病後回復期、疲労回復、健康増進

泉質別適応症

高尿酸値症 (痛風)、関節リウマチ、強直性脊椎炎

試料 1kg 中の成分：分量および組成

(イ) 陽イオン

成 分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
リチウムイオン (Li ⁺)	0.20	0.03	0.93
ナトリウムイオン (Na ⁺)	48.7	2.12	68.0
カリウムイオン (K ⁺)	2.10	0.05	1.73
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	0.61	0.05	1.61
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	17.2	0.86	27.6
ストロンチウムイオン (Sr ²⁺)	0.18	0.004	0.13
陽イオン 計	69.0	3.11	100

(ロ) 陰イオン

成 分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
フッ化物イオン (F ⁻)	3.89	0.20	6.63
塩化物イオン (Cl ⁻)	48.7	1.37	44.5
硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	4.54	0.09	3.06
炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	2.61	0.04	1.37
硝酸イオン (NO ₃ ⁻)	83.7	1.37	44.4
陰イオン 計	143	3.07	100

(ハ) 遊離成分

非解離成分

成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタけい酸 (H ₂ SiO ₃)	34.0	0.44
メタほう酸 (HBO ₂)	2.64	0.06
非解離成分 計	36.6	0.50

溶存ガス成分

成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素 (CO ₂) (遊離炭酸)	6.61	0.15
溶存ガス成分 計	6.61	0.15

(ニ) その他の微量成分

緑ビ素 : 0.05 mg/kg
緑水銀 : 0.00005 mg/kg 未満
銅 : 0.01 mg/kg 未満
鉛 : 0.01 mg/kg 未満
カドミウム : 0.01 mg/kg 未満

下記に該当する方は入浴禁止とします

病気の活動期 (特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など
身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓病又は肺の病気、むくみ
のあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の
急性増悪期

○泉質別禁忌症

該当なし

浴用上の注意事項

(1) 入浴前の注意事項

- ア. 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
- イ. 過度の疲労時には身体を休めること。
- ウ. 運動後 30分程度の間は身体を休めること。
- エ. 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。
- オ. 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度にならすとともに、身体を洗い流すこと。
- カ. 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、予めコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

(2) 入浴方法

ア. 入浴温度

高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42°C以上の高温浴は避けること。

イ. 入浴形態

心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。

ウ. 入浴回数

入浴開始後数日間は、1日当たり1~2回とし、慣れてきたら2~3回まで増やしてもよいこと。

エ. 入浴時間

入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3~10分程度とし、慣れてきたら15~20分程度までに延長してもよいこと。

(3) 入浴中の注意

ア. 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

イ. 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくりと出ること。

ウ. めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

(4) 入浴後の注意

- ア. 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を抜き取り、着衣の上、保湿及び30分程度の安静を心がけること (ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質 (例えは酸性泉や硫黄泉等) や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)。
- イ. 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

(5) 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

(6) その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

成分に影響を与える項目

- 温泉に水を加えて公共の浴用に供するか否かの別
加水する 理由: 温泉の供給量の不足を補うため
- 温泉に加温して公共の浴用に供するか否かの別
加温する 理由: 入浴に適した温度に保つため
- 温泉を循環させて公共の浴用に供するか否かの別
循環ろ過させる 理由: 温泉資源の保護及び、衛生管理のため
- 温泉に入浴剤を加え、又は温泉を消毒して公共の浴用に供するか否かの別
(1) 入浴剤を加えない
(2) 消毒する 消毒方法: 塩素系薬剤 理由: 衛生管理のため